

かんだ けんいち
神田 健一

酉年に 君子豹変

●基幹労連・事務局長

年明け早々に、何という話題を持ち出すのかとお叱りを受けるかもしれないが、私達は昨年、その取り組みにおいて、「痛恨の極み」となる結果を投げつけられた。昨夏の参議院議員選挙である。単に取り巻く環境の厳しきや、政治離れ等を理由にして片付けられるものではない。労働運動の基本ともいえる仲間との力合わせ・組織の強化という点で重大な課題を突きつけられたのである。

私たち基幹労連は、「職場原点の好循環」を掲げ、雇用と生活の安心・安定をめざしている。産業・企業労使における諸課題の解決を内における好循環、社会保障や税など政策課題への対応を外における好循環と位置付けて、労働組合の究極の目的といわれてきた「組合員とその家族の幸せ」につなげるために種々の取り組みを展開している。

こうした活動は組織全体が一枚岩となっこそ取り組みの実を上げるものであるが、こと政治活動は、「組織の強化・点検」と位置付けられてきた。それは、取り組みの成果と自らの組織力量が明確な数値として結果に現れる、活動のバロメーターともいえるものだからである。もとより、労働組合の政治活動は、政治のプロセスを通じた幸せづくり、政策の実現に向けた手段であることは言うまでもないが、この取り組みの結果は活動の士気にも影響してくるものである。

今私たちは、参議院議員選挙の結果を受けて、なぜ、何が、どのように足らなかったの

か、組織・個人に対し、各種のアンケートやヒアリングを通じ、その足らざるものを追究している。互いの立場を尊重しつつも、自らはもとより、仲間と共に厳しい目をもって、取り組みを振り返り、課題を掘り起し、逃げずに・めげずに次に繋げていく総括を行っているところである。

ところで、物事を見る目とはどのようにあるべきなのか、良く使われる「三つの目」を思い起こした。いわゆる虫の目・魚の目・鳥の目である。

虫の目とは、物事に近づいて様々な角度から細部を見つめる複眼の目。与えられた仕事をとにかくこなしていくことに懸命なだけでは重要な点を見落とすこともある。虫の目を持つことで改善の切り口を見つけ、正確に、質も高く処理することにもつながるといわれている。「小さい!」といわれるくらい時には精緻に見ることも大事なのだ。

魚の目とは、潮の流れのようなまわりの変化、時代の流れのようなものを敏感に感じ取る目。いわゆる魚眼、真後ろは無理のようだが前後左右を見れる広い視野をもつということは、「流れを感じる。」変化を見られるということらしい。変化を感じることでできる目があれば、レスポンスある次なるアクションも可能となるのだが。

そして鳥の目、大所高所からマクロ的、大局的に物事全体を把握する俯瞰の目。物事を進める際に、手段に凝りすぎて、本来の目的



や目標を忘れてしまうことはないだろうか。組織活動においても指摘をされて気付くことも多々経験した。

こうした三つの目を持つことができれば怖いものなしなのだが、一人ですべてを賄える者はそうは居ない。ならば、より多くの目・仲間の力を借りるのも一つの手である。自分に見えないことも、立ち位置を変えている様々な視点から見てもらえれば、様々な課題が見えてくるはず。つまり、仲間の指摘と叱咤を素直に受け入れることが大切なのだが、経験則や我を張って素直に聞き取れることができるかといえばなかなか難しい。

君子は豹変するという言葉がある。易経(革卦)の「君子豹変す、小人は面を革む(あらたむ)」に由来する。これは、豹の毛は季節によって抜け替わり、斑紋が鮮やかになるように、徳のある君子は過ちを改めて善い方に移り変わるが、小人(徳のない人)は表面的に改めるだけで本質は変わらない温度差、一つの物事に対して比喻的に言う語とある。

言い換えれば、立派な人物であるほど、自分が誤っていることが分かれば、きっぱりと言動を変える。過去のことにとらわれたり、アドバイスしてくれた人のことを恨んだりすることなく、すっきりした形で変わることができること。決して大将が悪い方に変わる言葉ではない。

大将といえば、米国の大統領選挙。多くの予想を覆してドナルド・トランプ氏が当選し

た。この投稿が記載されるときには、晴れて就任していることだろうが、どうか、君子として豹変されることを願うばかりである。

もとより、私たち自身も足らざるを補う姿勢を忘れてはならない。仲間との議論を大切にし、貴重な視点(指摘)と共に、ただ単に聞いたで終わることなく、心を傾け「聴く」ことを意識しながら、投げかけられた課題に組織一丸となって整齐と臨んでいかなければならない。

今年の干支は丁酉(ひのととり)。干支の意味するところは結局後からついてくるとのことだが酉年は革命の年といわれている。その中で、懸命に生きようとしているのか?鳥の体温はアヒル42.1度、鳩41.8度、スズメ41.5度という。

今年もまた、いろんなことが起こるかもしれないが、一喜一憂せず、鳥の体温にあやかりながら、あったかい気持ちをもって仲間と接し、目を使い分け、聴く耳を持ち、豹変とまではいかなくとも自らの中に変わるという想いを持つことで、より良い変化につなげることができるのではないだろうか。

彼の上杉鷹山曰く;「為せば成る。成さねば成らぬ何事も、成せぬは人の成さぬなりけり。」

今年一年を加盟組合の仲間と共に、大きく羽ばたける、リスタート【restart】;再始動の年にしていかなければならない。

ご安全に